

生産性の向上について



上野 進一郎*

プレストレストコンクリート（PC）の世界においてもっとも重要な課題のひとつは、生産性の向上だと思います。PCを含む建設産業は、他産業に比べて労働集約型産業、つまり人手を多く使う産業だといわれています。これは、工事ごとに内容、仕様、施工条件などが異なる単品受注生産であること、作業の大部分が屋外で行われ、自然条件の影響を受けやすいことなど建設産業の本質的な性格に由来しています。

PCの受注額は十年間減少の一途をたどってきましたが、最近四年間減少しずつ増加に転じています。このような時こそ、将来を見据えた対策を講じるべきです。

また、受注額が増加に転じたとはいっても、国や地方の財政状況をみれば、公共投資の増加には一定の制約があると考えべきです。一方、今後も労働力人口の減少が予測されており、生産性をいかに上げていくかが業界の将来を左右するといっても過言ではないと思います。

生産性を向上させるうえで重要なことは、「コストダウン」と「品質の向上」の両方を同時に達成することです。コストダウンは、ダンピングや関連企業にしわ寄せをすることなく、合理的な努力によるコストの低減でなければなりません。また、品質の向上は、施工当初の品質のみならず長期的な耐久性を担保するものであるべきです。

これを達成するには、第一に、技術者、技能者とも、優秀な人材の確保、育成が不可欠です。PCが一層信頼性を高め、メンテナンスの時代において活用の幅を広げていくためには、長期間にわたり品質が確保されることが重要ですが、それは技術者、技能労働者の質によって担保されます。担い手の確保、とくに若手の技術者、技能労働者の確保は喫緊の課題となっています。PC建協では、協会や会員の各企業がさまざまな対策を

講じています。とくに、PC工学会の先生方と協力して、PC技術専門家派遣事業などに積極的に取り組んでいます。担い手の確保が最大の課題であることは間違いありません。若者が自分の一生を託すだけの将来性のある産業界にしていくこと、そしてそれが実感できることが求められています。また、工学会認定の二つの資格「プレストレストコンクリート技士」と「コンクリート構造診断士」は、国土交通省の技術者資格として認定され、点検・診断などへ活用の道が開けました。今後は工事での一層の活用を働きかけるとともに、認知度をさらに高めるための努力が必要となります。

第二に、施工の現場における合理化の努力です。これまでさまざまな工夫がなされてきましたが、新しい技術の活用、機械化による自動化、省力化、情報技術の活用など、材料と施工法の両面でさらなる努力が求められています。その際、規格の標準化、とくにPCの世界ではプレキャストの活用など工場製作の拡大が重要です。これには、一層のコスト引き下げに取り組むとともに、工場製作の積極的な活用について発注者の理解を求めていくことも必要です。とくに、構造形式の選定にあたり、ライフサイクルコストや安全性、工期、環境など、初期コストに偏らない幅広い項目を総合的に評価することなど、発注者に提案し、協力していきたいと考えています。また、工事の平準化、工事書類の簡素化なども、発注者と受注者が協力して進めることが重要となっています。

このような幅広い取組みを展開していくうえで、PC工学会の皆様との協力は不可欠であります。一層の連携の強化に努めてまいりたいと考えておりますので、今後ともよろしくご依頼申し上げます。

* Shinichiro UENO : (一社)プレストレスト・コンクリート建設業協会 専務理事